

第17回全国統計大会ひらく

＝神戸国際会館に2500人集う＝

全国統計大会は、統計思想の普及と関係者の志気の高揚をはかることを目的に、毎年各ブロックの主要都市で関係者多数を集めて開かれているが、今年は回を重ねて第17回、国際港神戸市の三ノ宮駅前神戸国際会館で去る10月12日全国からの参加者2,500人を集めて盛大に行なわれた。

この大会は全統連、兵庫県、神戸市が主催、大阪、京都、福井、滋賀、奈良、和歌山の近畿ブロック各県の後援、総理府統計局、行政管理庁、経済企画庁その他各省協賛で行なわれた。

本県からも、市町村などから42名参加いたしました。



大会の行なわれた国際会館は、国鉄三宮駅前の目抜き通りにある10階建ての大きなビルで、大会会場のホールは優に3,000人を収容できるマンモスぶりである。会場玄関入口には第17回全国統計大会の大横文字の看板がはられ、受付が特設され多忙を極めていた。

内部の舞台は黒布を背景に鮮やかに、日の丸、兵庫県神戸市の旗が飾られ、全国統計大会の文字と共にサーチに輝き大会気分を横溢させていた。

大会前の11日には同会館5階の小会場で、さきに募集した統計図表の全国コンクールの入賞作品展示会を開催した。展示作品は36点、この展示会は大会当日も開かれ大会参加者の眼を集めていた。

小学生の部で特選をかち得た結城市立江川北小学校の黒川弘司君の図表は、展示場入口近くにトップに飾られ異彩を放っていた。

大会出席者の受付開始の8時30分にはすでに参加者もぞくぞくと会場に集まり、主催者側の係員たちは案内やら諸準備のため多忙をきわめ汗だくの大奮闘、会場には受賞者の特別席と、一般参加者の席に区別され、本県受賞者もそれぞれ席につく。

いよいよ開会の9時30分、あたりを見廻すと会場の階

上、階下とも参加者で満員。会場は温度も高く、上着を脱ぐ人も目だつたが、雑音一つ聞えず静寂の中に、会場はおもむろに開会の辞がのべられた。間もなく小笠原大内会長の、統計のもつ意義とその向上発展は国際的にも高く評価されているが、すべて全国関係者の努力と研さんによるものであり今後もさらに協力し、高精度の統計を早く、多く利用者に提供したいものであり関係者の一層の努力を期待すると共に、ご健康を祈ると歓迎のあいさつ。つづいて今井兵庫県知事(代)、原口神戸市長(代)の歓迎のあいさつがそれぞれ行なわれた。9時45分、いよいよ大会の白眉である統計功労者の表彰が始まった。

まず有沢大内賞審議委員長が大内賞の審査経緯を述べた後、荒賀幸吉氏をはじめ大内賞受賞者が個々に壇上へ立ち、大内会長から賞状と記念品をうけられた。つづいて各省庁表彰、全統連会長表彰などあり、本県関係者も呼名、起立され代表者が登壇一括受賞をうけた。以上統計関係者の表彰は終了、全国図表コンクールに入賞した方の表彰に入る。



受賞者は個々に登壇大内全統連会長より賞状と記念品をうけられ、感無量の表情で顔を緊張させていた。その結城市江川北小学校の黒川弘司君は、トップで受賞したが、その態度は落ち着いてわれわれをほつとさせた。同君には特に行政管理庁長官特別賞が贈られその喜びに感激していた。

付添いの父も前列正面に陣どりわが子の受賞を喜んでいたが、心なしか緊張した様子でした。図表コンクール表彰も2、3、4部と順次すすみ、開会1時間会場でなく全部表彰は終了した。時計は10時43分を指していた。

10時45分、総理大臣の祝辞を大内大会長が代読、つづいて



以上大会に出席いたしましたのでその模様を摘録いたしました。拙文多謝。

本日の神戸市における大会で受賞された本県関係の方は別記のとおりです。(取材＝県統計課横田主幹)

第17回全国統計大会受賞者（本県分）

(省略称)

内閣総理大臣表彰

大録 義行	県開発部統計課
武藤 正弘	県開発部統計課

行政管理庁長官表彰

田中 文司	県開発部統計課
張替 三郎	猿島町役場

文部大臣表彰

茨城県

全国統計協会連合会長表彰

野口善次郎	石下町役場
-------	-------

第14回統計図表全国コンクール入選者表彰

行政管理庁長官特別賞

黒川 弘司	結城市立江川北小学校 5年
-------	---------------

第1部（小学校）

特選	土によつてちがう大豆の育ち方	
	黒川 弘司	結城市江川北小学校 5年
6席	じしやくのちから	
	斎藤 泰明	結城市立江川北小学校 1年
9席	ありじごくはからだにあわせてすをつくる	
	高野沢文江	結城市立江川北小学校 2年
	稲葉百合子	〃

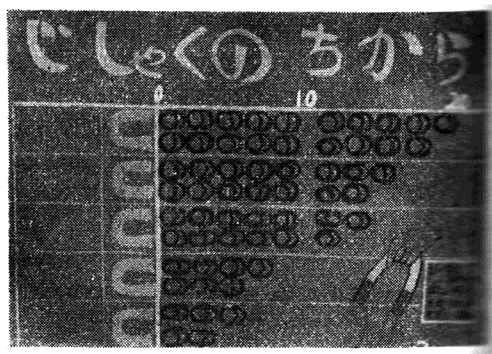
第2部（中学校）

7席	もつと親子の話しあい	
	石井久美子	結城市立結城中学校 3年
	牛久 明美	〃
	河田 みと	〃 2年

第17回茨城県統計図表コンクール入選作品

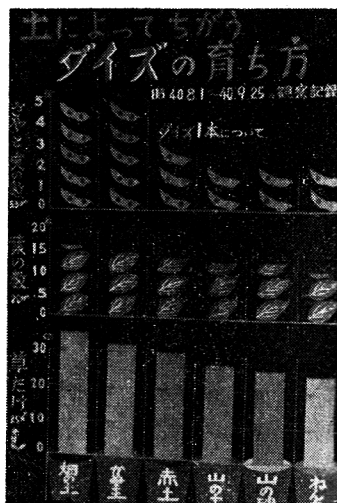
第1部 (小学校1～3年)

入選区分	表題	氏名	学年	学校名
1席	じしやくのちから	斉藤 泰明	1	結城市立江川北小学校
2席	はたらくお母さん	白田 幸代	3	結城市立結城小学校
	ありじごくはからだにあわせてすをつくる	高野 沢文 稲葉 百合子	2	結城市立江川北小学校
3席	うき草はどんな所でふえるか	浜野 洋子 幸子	3	結城市立江川北小学校
	虫の力くらべ	ふなばし ひろみ ながふじ せいいち	2	結城市立江川南小学校
	でんきはだんだん多く使われる	田村 禎子	3	結城市立結城小学校



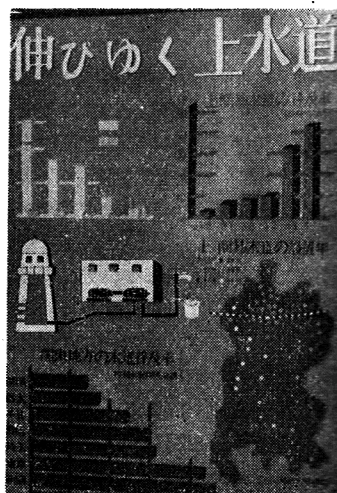
第2部 (小学校4～6年)

入選区分	表題	氏名	学年	学校名
1席	土によつてちがうダイズの育ち方	黒川 弘司	5	結城市立江川北小学校
2席	いねの成長	北島 良子 深谷 成江	6	結城市立山川小学校
	いねの発芽のはやさ	出山 恵美子 岩崎 佳子	6	結城市立江川北小学校
3席	父や兄のすうタバコ	木村 京子 赤岩 春子 大橋 千雅子	6	猿島郡三和村立諸川小学校
	まだ多いTV子	浜野 洋子 沢田 光子	6	結城市立江川北小学校
	ほけん室にきた人	鈴木 道子 池沢 玲子	5	猿島郡三和村立諸川小学校



第3部 (中学校)

入選区分	表題	氏名	学年	学校名
1席	伸びゆく上水道	田中 恵子 滝沢 君江 猪野 瀬幹子	3	結城市立結城中学校
2席	市の財政はピンチ	竹本 知子 稲葉 典子	3	結城市立結城中学校
	もつと親子の話し合いを	石井 久美子 牛久 明美 河田 みと	3 3 2	結城市立結城中学校
3席	鬼怒川の砂利と砂	江連 正子 田中 靖子 矢口 弘子	1	結城市立結城中学校
	成果あげるぶどう園	黒田 裕子 阿部 美智子 田部 智子 滝沢 千鶴子	1	結城市立上山川中学校
	私たちの体力	鈴木 淑子 古沢 雪子 小島 和子 山口 久子 石川 みち子	3	結城市立上山川中学校



統計図表コンクール作品の審査を省りみて

県統計課 田中文司
広報資料係長

思想の普及向上と統計の表現技術の研さんに資す
をもつて、毎年実施している県の統計図表コンク
目を重ねること17回に及び、本年も小、中学校の
生徒から苦心の作品が数多く出品され、8月31日
審査会が開催され別記のように入選作品が決定し

このコンクール応募対象は一般および小、中、高校の
生徒であるが、統計図表という特殊なものだけに
か普及浸透がむづかしいものであり、本年も出品
中学校に限られ、高校および一般からは出品がな
た。これは今後統計思想普及上の問題としての研究
であると考えられる。しかし小、中校の場合は統計
の普及向上によつて統計に対する認識も深まり年々
な作品が出品され全国水準にまで到達している現況
である。

出品総数は207点で、第1部65点(小学校1年～3年)
第2部113点(小学校4年～6年)、第3部29点(中学
第2部出品数が圧倒的に多い。このことは1部は小
低学年のため、これらの学年に対する統計技術指導
むづかしさからと思われるが、次回からは学年相応の
図表が数多く出品されることを望んでいる。また、
小学校においては1部の学校に限られてしまつたが、高
等学問題などと関連しているように思われる。

地域的にみると、従来ややもすると一部の地域に限ら
れていたようであるが、今回は各地域から作品が寄せら
れ統計教育の成果が高まりつつあるように思われる。

審査の概況

審査は、8月31日県議会第一委員会室において、県教
育庁総務課ならびに指導課の諸先生および県開発部統計
委員により厳正公平に行なわれた。1部から順次に審査

は行なわれ、最初に作品が統計図表の基本的な諸要件を
副えているかということ、すなわち統計図表の基本に忠
実に画かれているかどうかということから始まり、募集
要項に示してある諸条件(規格、各部課題等)に合致し
ているかどうか、資料はどうか、表現技術はどうかなど
1枚1枚綿密に討論が行なわれて最終的に別紙のように
その入選が決まつた。さらに入選作品のうち各部の上位
入選作品を第14回全国統計図表コンクールに出品するた
めの審査が行われた。

この審査の際、特に問題になつた諸点を記し後日の参
考に供したい。

用紙規格

募集要領に示されている第1部、第2部(B列2判)72.8
cm×51.5cmに対し、用紙が大き過ぎたもの、または小さ
いものがあり第1次審査で除外された。

統計表の貼付

作品には、その図表を画くために使つた統計表を規
定の大きさの用紙で、作品下部に貼付することになつ
ているが統計表の貼付がなかつたものがあつた。統計
表は、図表の数値の正確性を表わすものとしてコンク
ール作品にはとくに必要である。

図表について

題名

展示用である以上、一目で図表の内容がわかるよう
に平易にくだけた言葉で表現するように、例えば交通
事故調というように統計表そのままの題名は固苦しく
なりあまり感心しないから、見る人の興味をひくよう
に表現した方がよい。題名がその図表の価値を決定す
ることもあるといわれる。

資料名等

資料名、調査名、調査時点等の記載のないものあり
これからは統計図表の真实性を裏付けるものとして大事である。

注、副題等

簡単に考えられる傾向があるが、これは図表の内容を一目ではつきり説明するために大事であり、この説明次第によつて内容を複雑に考えさせ理解しがたいものとしてしまうようなこともある。題名と同様大切なものである。

目盛単位の記入のないもの

基軸線（〇線）の目盛〇の記入のないもの

これらは図表の基本として大事である。

統計資料

この統計図表コンクールの大きなウエイトを占めるものは資料であり、審査基準もこの資料「適正な選択と加工」に重点がおかれている関係上審査は資料の適否により左右される。第1部、第2部の課題は、児童に観察した結果を図表化したものであり、単に既存の統計資料の図表化はこの部の課題からいつでも不適格である。審査はこの観察した結果の図表を基にして行なわれ、その資料がどのように加工され適正に図表化されているかという点によつて審査員諸氏の意見をきき、順次にしぼられていく。小学校の部ではこの観察によらない既存の統計資料を利用した作品も多かつたが、これからは社会科、理科等の学科の中での観察を基にして、何かを観察しそれを図表化するように指導することが大切であり、図表作成の前提としての観察記録が大切である。単に教科書、または学習書からの転記と思われるような図表は真实性が乏しく余り感心しない。また、中学校では観察または既存統計の利用であるがやはり観察した結果の方が真实性があり見る人をひきつけるようである。ただし、観察が小学校の場合と違って余り幼稚なものでなく、社会的にも何かの問題点を探求したものがよいと思われる。既存資料の利用についても唯単に統計表をそのまま図表化したものでは訴える力が少ない。その統計表から社会的な見

ころ（問題点）を訴えるようなものを選ぶべきであり、いろいろの統計からこれを加工、比較して社会的な問題点を表現するようにしたい。例えば何年度の交通事故調べというような唯事故件数をら列したものより、何故そういう事故が、どうして起り、その原因はどこにあるか、あるいは事故の時間的観察、運転者の年齢などのように、その事故について総合的に観察した結果をより効果的に簡潔に一枚の図表に表現したいものである。統計資料の選択は、図表作成上最も重要なものだけに、作図以前に選択、整理しその中から何をどのように図表化するかということを考えるべきである。

表現技術

統計表をどのように図表に表わすかということ、選択された統計表の内容等によつて、それぞれの図形のもつている長所、短所を理解して適切な図形を選ぶ必要がある。例えば単なる増減の比較を表わすには棒グラフにするとか、傾向をみるものについては折線グラフにするとかいつたように図形のもつている性質をよくのみこんで作図すると、一層立派な作品となつてくるようなものが多かつた。

表現技術のうち美観（色彩）については、従前これら相当の審査基準が設けられていたが、最近では黒といったあつさりした色彩でもよいとされている。これは、美観ということにとらわれ過ぎて次第に図表本来の性格を見失はなれるといったおそれがある資料に重点が置かれたためであり、余りきれいな図形の必要はないということである。しかし、長方形の図表という点からみても、ある程度色彩は見る楽しさから、あまり多色をゴタゴタと使わないで少くとも程よく混合しつきりした感じのものとした方がよいと思う。きれいに仕上げることにばかりとらわれてその面にだけ注意が向けられて、図表本来の性格を見失うおそれもある。

そこで、今後統計図表を画くために守つて

県内産業の展望

(その 18)

＝恐慌下の昭和初期＝

県統計課 横須賀 弘

「明治は遠くなりけり」とはよく耳にする言葉であります。昭和もすでに40有余年を経過し、昭和40年国勢調査からも昭和年代出生の人口構成は総人口の約70%に達し、近い将来における当該階層の構成比の低下が、経済界はいうにおよばず各面への深刻な問題として今後ますます論議を呼ぶことでありましょう。しかし、こうした現代日本経済の素地も過去100年間の間に蓄積されてきたのであります。とくに京浜工業地帯の発達は明治初期から国内産業に大きな影響力を有した官営工場の生産活動があります。当時の京浜地区の主な官営工場をみてみますと

- 東京砲兵工廠 明治元年幕府より官設
- 横須賀造船所 明治元年幕府の製鉄所を接収
- 板橋・目黒火薬製造所
- 赤羽工作分局 明治4年設立鉄造機械製作
- 深川 // 明治7年官営セメント製造
- 品川硝子製造所 明治9年設立
- 新宿製糸試験場
- 上野屑糸繭紡績所 明治10年設立
- 千住製絨所 明治9年設立 軍用

等があつたのであります。なかでも東京は政府との結びつきが強かつたので、他に先んじて模範的工場が政府の直接間接の保護のもとに設立されていたのであります。しかし、当時における資本の蓄積は大阪の方がはるかに高かつたのであり、その勢力は東京を大きく凌駕していたのであります。すなはち、明治33年における工場地方別分布をみますと、大阪府794工場、愛知県686工場、長

野639工場で東京府は416工場で第4位になってお

す。(茨城県は63工場で第32位)
もつとも明治初期の工業は前にも触れましたように、糸、製糸が中心であり、明治年代を通じてわが国の中核をなしていたのがわかります。つまり明治初期における紡織産業の工場数は全工場数の48.6%を占めていたことからもよくわかります。したがって国内における工場分布も明治27年代には長野県が最も多く、ついで兵庫、京都の順となり、これら上位グループはいずれも製糸業によるものであります。

このような国内工場分布の色わけも、日清日露戦争という時局を契機に全国的に工業地帯形成の下地が準備され、中小企業のぼつ興、また規模の比較的大きな工業企業に近接した地域に建設され新しい工業地帯の萌芽があつたのであります。本県においても日立市に日本鋼管が創立があり、現在の日立工業地帯の母体となつたのはこの時のそうした国内推移のなかから培くくまれたものであります。もつとも県内、県北地帯は古くから資源の発が進められ、旧佐竹藩も金鉱脈の開発に力を注ぎ、郡の山々の間に現在もその廃坑がみられるのであります。が金の発掘のほかにも力を注いでいたこともうなづかれます。つまり現在の日立鉱山の佐竹坑という名からも佐竹藩が銅の発掘を行なつたことも推察されることがあります。しかし佐竹氏に代つた徳川氏はこうした資源に対して積極的な事業の推進は行なわなかつたので、その時の多くの金山は次第に閉鎖されていつたのであります。

第1表 府県別工場数

	明治27年	明治33年		明治27年	明治33年		明治27年	明治33年		明治27年	明治33年
全 国	5,985	7,284	千 葉	78	88	三 重	113	204	徳 島	38	
北海道	51	94	東 京	277	416	滋 賀	48	48	香 川	73	
青 森	26	20	神 奈 川	68	118	京 都	348	205	愛 媛	91	
岩 手	62	100	新 潟	116	146	大 阪	573	794	高 知	—	
宮 城	39	71	富 山	215	169	兵 庫	481	381	福 岡	67	
秋 田	37	45	石 川	108	218	奈 良	21	39	佐 賀	44	
山 形	120	125	福 井	176	257	和 歌 山	71	47	長 崎	76	
福 島	61	76	山 梨	244	118	鳥 取	87	73	熊 本	26	
茨 城	95	63	長 野	779	639	島 根	124	157	大 分	65	
栃 木	11	64	岐 阜	319	351	岡 山	184	229	宮 崎	19	
群 馬	48	132	静 岡	69	153	広 島	83	104	鹿 児 島	30	
埼 玉	26	61	愛 知	291	686	山 口	37	56	沖 縄	—	

表から工場数においても近畿地域の比重の大きいことがわかりますが、昭和に入りその京浜地域の大きな割合を占めるのであります。第2表は明治42年から昭和

3年までの「東京・神奈川」および「大阪、兵庫」地域の工場増加の推移をみたものであります。

第2表 東京・大阪地域工場数の推移

地域別	年次	明治42年	大正3年	大正8年	大正13年	昭和3年
		%	%	%	%	%
全 国		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
東 京・神奈川		11.1	12.2	12.3	10.9	14.1
大 阪・兵 庫		13.7	18.9	18.2	18.5	19.4

第2表は国内全工場に占める当該地域内工場の割合を示したものであります。この表から明治42年と昭和3年における増加率をみますと東京地域は3.1ポイント、大阪地域は5.6ポイントであります。これは東京地域の明治42年の構成比10.9%をみてもわかるように当該地域はその年の関東大震災により決定的打撃を受けたため、以後の増加テンポも落ちたのであります。

ここで初めて明治以降から昭和初期の経済の推移を概観してみますと、明治年代の産業構造は前述からも製糸・綿紡績業などの軽工業部門の産業が中心領域を占める傾向より大正初期にかけての産業の発展は地理的に孤立した発展をみ、またその背後には「戦争」という経済的要因から政策的需給に支えられていたことはわが国産業発展のなかでも大きな特長とみられるでしょう。こうした孤立的に発展した産業の多くは輸入機械と輸入原料に大きく依存し、そのため生産の迂回化や関連産業への導役は少なかつたのであります。しかし、たとえ地理的に分散した発展を遂げた当該産業、すなはち重化学工業の比重が強くなるにつれて、そこにまた新しい工業地帯の形成が次第に行なわれつつあつたのであります。この重化学工業部門の産業に対し、在来産業であつた製糸業・綿紡績業は早くから非常に大きな発達を遂げたのであります。明治、大正年代にかけて安価な労働力に依存して農村に分散して地域的发展を遂げたのであります。したがつて当該産業もまた工業地域の形成には大きな影響を及ぼさなかつたのであります。このような工場進出

の動機は現在の企業のとりわけ大都市周辺への地方進出工場等の動機と全く一致していることは注目すべきことでしよう。

前段でも東京・大阪などにぼつぼつ工場の集中化が行なわれつつあることを述べましたが、昭和初期の欧州大戦を機会に起つた重化学工業への若干の傾斜が更にこれを強めたといえるのでありましょう。このような工業地帯の確立は日本産業の社会的分業をおし進め、産業部門の専門化と多様化がすすむと共に、その相互依存と産業的連関が強まつたのであります。そして、この工業地帯の確立とその展開は都市への人口の集中をとめないながら、そこに生産の集中・集積をおしすすめ、地域格差ばかりでなく、産業間・企業間にも多くの格差を生ぜしめ日本工業の二重構造の成立もこの時代に形成されたのであります。こうした国内の産業構造をかかへた国内経済をみてみますと、大正前期の大戦中に膨脹した後の反動恐慌につづく慢性不況にみまわれたのであります。したがつて当時の政府の財政緊縮、消費節約のデフレーション政策産業合理化、そして昭和5年には金解禁を強行したのであります。このため、それより1年ほどより前から始まつていたアメリカの大恐慌をまともうける結果となり、国内の恐慌はさらに深刻化していつたのであります。このことは工業統計の数値の上からもみられるのであります。すなはち、大正14年から昭和6年までの期間は沈滞の時期でもあつたのであります。

第3表 工場数、従業者数の推移

年 次	工 場		従 業 者	
	工 場 数	増 加 指 数 (大正14年=100)	従 業 者 数	増 加 指 数 (大正14年=100)
大 正 14 年(A)	48,514	—	1,771,457	—
昭 和 4 年	59,430	122.5	1,954,660	110.3
昭 和 6 年(B)	63,938	107.6	1,780,000	91.1

注：工場増加指数(B)/(A)=131.8%

従業者増加指数(B)/(A)=100.5%

すなはち、第3表からこの6年間に工場数は31.8%増加しておりますが、従業者は0.5%増加したにすぎず、しかも、昭和4年から6年にかけては8.9%減少していることがわかります。また、生産額においては第4表のと

おり6年間に25.5%の減少であり、昭和4年から昭和6年間に33.3%の大きな減少を示しているのです。

第4表 生産額の推移

	大正14年 (A)	昭和4年 (B)	昭和6年 (C)	生産額増加指数		
				(A)=100 大正14年	(B)=100 昭和4年	(A)=100 昭和6年
生産額	百万円 6,924.9	百万円 7,738.7	百万円 5,159.8	111.8%	66.7%	74.5%

この全国の統計数値の傾向は県内のそれと全く一致していることをみても、同じ不況と恐慌の波は広く全国に及んでいたことを物語っているのであります。本県の場合

合とくに、従業者数と生産額の増減に明確に前述のことが明らかであります。

第5表 県内従業者数、生産額の推移

	従業者		生産額	
	従業者数	増加指数 (A)=100	生産額	増加指数 (A)=100
大正14年(A)	人 20,608	% —	円 56,040,818	% —
昭和4年(B)	14,926	72.4	55,702,182	99.4
昭和6年(C)	13,233	64.2 (B=100円)	31,498,415	56.2 (B=100)

すなはち、大正14年を100%としたときの昭和4年における指数は27.6%の減少を示し、それが昭和6年には35.8%の減少と全国の同数値と比較しましても大きな減少率を示しております。さらに生産額についてみましても昭和4年の減少率は大正14年にくらべ0.6%の減少で

あり、それが昭和6年には実に47.4%と約50%近くにすぎませんでした。

このことから、国内に充満した不況と恐慌嵐は本県の場合想像以上に深刻さを加へていたことが推察されております。

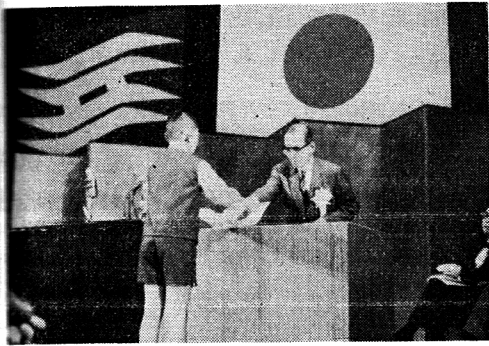


統計スナップ

黒川君の図表は日本一

去る10月12日、神戸市で行なわれた全国統計大会の席で、すでに図表コンクールの第1部特選がきまつた黒川君の作品「土によつてちがうダイズの育ち方」が、一連から表彰され、賞状と賞品が送られた。なお、各賞を通じて最もすぐれているので行政管理庁長官から特別賞状と賞品が重ねて送られた。これによつて、本県図表における水準が高まつたと考えられ、関係者のよこびは大きい。

ここに黒川君が本誌によせた研究談を紹介するとともに今後のなおいつその向上を期待する。



全国統計大会で賞状を受ける黒川君
「土によつてちがうダイズの育ち方」
をかいて

茨城県結城市立江川北小学校5年
黒川 弘 司

ぼくは、3年生の時「土のいろいろ。」について、研究をはじめ、土によつて「水のしみこみ方」や「しもばしらの出き方。」のちがいを、知ることができました。

4年生では「ダイズの育ち方」5年生では「アサガオの育ち方。」の研究を続け、植物は土によつて育ち方のちがうことがわかりました。この研究は、夏休みや、冬休みを利用して、積み重ねたものです。

「水のしみこみ方」の研究は、統計図表に書き、知事賞をいただきました。また「ダイズの育ち方」は、県の科学作品展で優秀賞をいただきましたが、ダイズの統計図表が、全国で特選になるとは思いもよらないことでした。

観察記録文では、標本や写真もいれて、アルバム1冊にもなつた資料を、一目でわかるような図表にするにはどうしたらよいかとまよいました。

先生や家の人たちと相談しながら、小さな紙に草たけ葉の数、実の数と、3つにわけたり、紙をよこにしたりたてにしたり、くふうしてみました。

でも、やっぱり、一連のものなので、たて軸を土の種類別に分けて表わすことにしました。去年の全国統計図表展の、スライドも見せていただいたので、たいへん参考になりました。

色については、地色は、土に近い色と考えましたが、なかなか思う色はでませんでした。土や、ダイズの実、葉、くきは、実物の色で表わし、形は、標本の実物をとつて写しました。くきの太さも表わそうとしましたが、できませんでした。左の方に1本ダイズのくきを書き、下に根をはらせたところは、くふうしたつもりでしたがさらに根粒を書きこめばよかつたと思つています。

図表にまとめてみると、長い間続けてきた研究でも、観察の結果が一目でわかるように表わすことができました。色全体が原色に近いので、表題や数字に落ちついた色を使いました。

この図表を見ると、3年間続けた「土の研究」の喜びや、苦しみが思い出されます。

ぼくは、統計図表の入賞を機会に、もつと、もつと、勉強にはげみたいと思います。

那珂郡において児童生徒の 統計図表作品展開く

去る10月7日、那珂町菅谷小学校において、郡内小、中学校児童生徒の統計図表作品の展覧会が催された。県から審査員として田中文司氏が出席し、優秀作品に対して県統計協会会長賞が贈られた。

各県で統計大会開かる

統計大会は統計思想の普及向上と日頃地味な活動をつづける統計関係者の志気の高揚をはかつて毎年各地で行なわれる。

本年度も10月19日長野、20日に群馬、24日に東京、26日に静岡、27日に神奈川でそれぞれ盛大に開かれた。

昭和41年度地方統計職員業務研修会開催

市町村において統計事務に従事する職員に対し、業務上必要な知識と技術を修得させ、地方統計機構の機能を強化充実させるために、行政管理庁主催のもとに11月15日～18日、12月6日～9日の2回にわたり茨城県統計館および水戸市水府荘において標記研修会が開催された。

講習科目は次のとおりである。

- | | | |
|----------------|----------------|--------|
| ○統計組織と法規 | 統計基準局 | |
| ○市町村勢要覧の作り方 | 統計審査官 | 小島 豊 |
| ○図表による統計のあらわし方 | | |
| | 県統計課
広報資料係長 | 田中文司 |
| ○地域開発と統計 | 県統計課
課長補佐 | 大録義行 |
| ○経済指数のしくみ | 県統計課
経済統計係長 | 森島忠蔵 |
| ○時系列 | 県統計課
課長 | 中村卓雄 |
| ○標本調査のしくみ | 県統計課
課長 | 星 宏 |
| ○調査票の設計のしかた | 県統計課
企画係長 | 宇留野真一郎 |

毎月勤労統計調査労働大臣表彰!!

労働省が、毎月行なっている毎月勤労統計調査において調査の主旨をよく理解し成績優秀な事業所及び調査員に対し去る8月労働大臣が表彰をした。本県でも下記の事業所、調査員諸氏が、日頃の正確な報告と誠実な仕事事が認められて、その栄によくした。

記

事業所

石岡精工株式会社

株式会社山本電機製作所取手工場

日本国有鉄道水戸鉄道管理局水戸電務区

日本無機繊維工業株式会社結城工場

高炭炭礦株式会社高萩工業所櫛形礦

統計調査員

大野英夫 竜ヶ崎市佐賀町

古沢 茂 水戸市西原町4区

飯村 祥 西茨城郡岩瀬町

11月11日に茨城県統計大会開催

昭和40年度統計大会は、新装なつた県民文化センター大ホールで行われる。県下の統計関係者約600名が参る予定である。当日は、知事賞、統計協会会長賞など表彰が行なわれる。ほかにアトラクションとして猿島で土芸能がある。

県史編さん進む!!

「近代統計篇」完成間近か!

1 昨年から10年計画で始まつた県史編さん事業は、28巻という、他県ではあまり例のない大規模なものとなる。今年度は第1回として「茨城県史料」(近代統計篇)が刊行されることになつている。このほどまとまつた内容は、明治前期から太平洋戦争直前までのおよそ100年の統計を収録するもので、県の統計書を中心に調査資料としてまとめられる。監修は、茨大講師長井正徳、茨大教授木戸田四部の両氏である。

内容構成は、

- ① 行政(土地、気象、戸口、社寺、教会、交通、災害、郵便、電信電話、貯蓄、財政、議会、官公吏などに関する各種統計)
- ② 学事・教育(学令児童、小、中学校、高等師範学校、実業学校、青年学校、各種学校)
- ③ 産業(農業、畜産商業、林業、水産業、銀工、金工)である。

ほかに詳細な解題がつくので、県近代史のことが出来るものとなろう。

